

【国語】

一般入試では大問2題を出題する。いずれもある程度の長さ(3000字前後)の文章を提示し、そこにさまざまな設問を配置するという、現代文入試の基本的なスタイルを採用している。文章はいずれも表現・内容ともに標準的なレベルのものであり、一つは論理で展開していくやや硬めの評論文、もう一つは理詰めではなくやや緩やかに展開していく評論文もしくは随筆文である。これは多様な文章を読ませたいというねらいによるものである。

設問は一般の現代文入試問題と同様に、書き取りや読み、空欄補充、語意、傍線部の内容や理由の把握、欠文補充、本文の内容との合致など、多様な形式を組み合わせで作成している。国語の総合的な力を試すことがねらいである。これに加え、二つの文章を組み合わせ出題し、それらの内容や著者の意図などの異同を問う設問、本文から敷衍して読み取れる内容を問う設問、ディベート形式の設問といった工夫を凝らした形式も採用している。

そもそも現代文はいわゆる暗記科目ではなく(漢字や語意問題を除く)、読解力や表現力、思考力などが問われる科目であるが、これらの設問はまさにこの思考力に焦点を当てたものである。本腰を入れて入試対策に取り組まなければならないという覚悟を受験生に促すものとなっている。